

インドネシア：政策金利を0.5%引き上げ5.25%へ 通貨ルピアの安定を重視する姿勢を鮮明に

インドネシア中央銀行（BI）は5月20日、政策金利を0.5%引き上げ、5.25%に決定しました。2024年9月に利下げに転換して以来、20ヵ月ぶりの政策転換です。通貨ルピアは5月19日に対米ドルで史上最安値圏で下落しており、今回の利上げは主に通貨防衛を目的としたものです。一方で、株式市場も下落基調を強めており、景気への影響が懸念されています。BIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

➤ 市場予想を上回る0.5%の利上げ

金融政策の概要：

■ BIは5月20日に終了した金融政策決定会合で、政策金利である7日物リバースレポ金利を0.5%引き上げて5.25%に決定しました。前月まで政策金利を7ヵ月連続で据え置いており、市場では据え置き、もしくは0.25%の小幅な利上げが想定されていたため、今回の0.5%の利上げは市場予想を上回る内容であり、通貨防衛を最優先とするBIの強い姿勢を示す結果となりました。今回の決定についてBIは、「通貨ルピアの安定化をさらに強化し、2026年および2027年のインフレ目標レンジ（2.5±1%）内にインフレ率を維持するための予防的措置でもある」と説明しています。

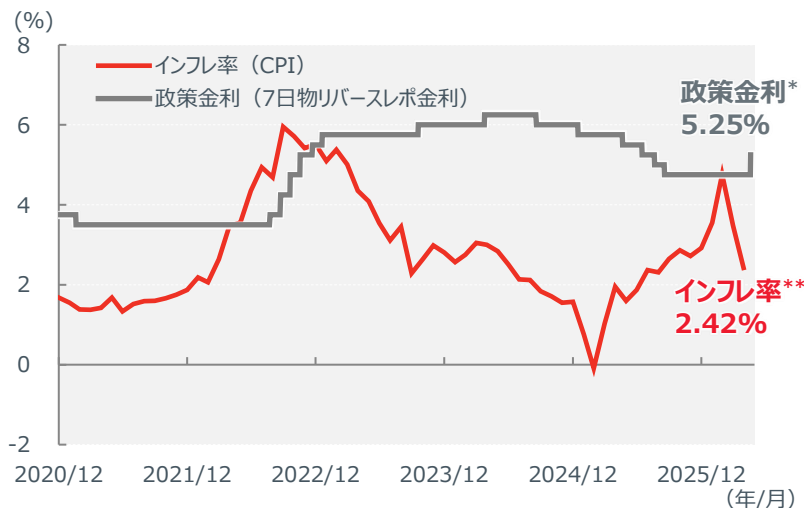
インフレ動向：

■ 2026年4月のインフレ率は前年同月比+2.42%と、前月（同+3.48%）から一段と減速し、BIの目標レンジ（2.5%±1%）内に収まりました。BIはルピアの安定化措置と並行して、2026年および2027年を通じてインフレ率は目標レンジ内に収れんするよう金融政策ミックスの強化を継続する方針を示しています。

経済成長見通し：

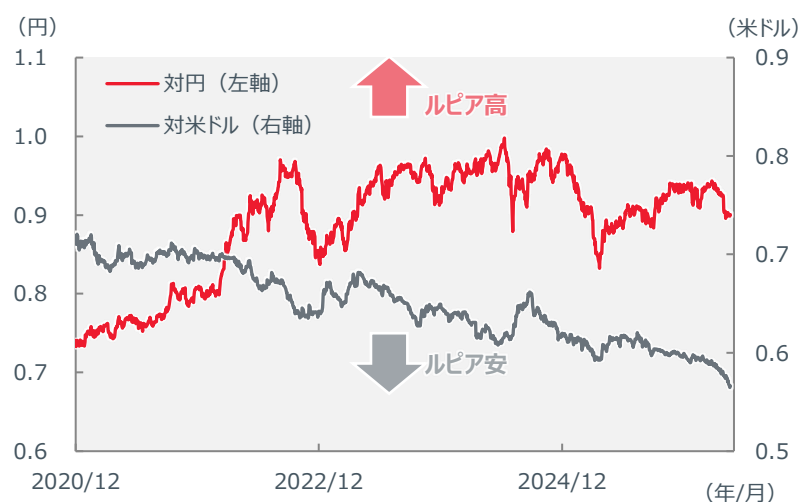
■ 国内需要に支えられ、実質GDP成長率は、2025年第4四半期の前年同期比5.39%から2026年第1四半期は同5.61%に加速しました。BIは、2026年の実質GDP成長率について、4.9～5.7%のレンジで推移するとの従来の見通しを据え置き、引き続き堅調な成長が見込まれるとしています。

政策金利とインフレ率
政策金利*とインフレ率**の推移
(2020年12月31日～2026年5月20日、日次)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
* 7日物リバースレポ金利。
** 消費者物価指数（CPI）上昇率。前年同月比。2026年4月まで。

為替
インドネシアルピア（対円、対米ドル）の推移
(2020年12月31日～2026年5月20日、日次)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※ 対円は100ルピア、対米ドルは10,000ルピア当たりの推移。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

260521(03)

(1/2)

➤ 市場の反応と今後の見通し

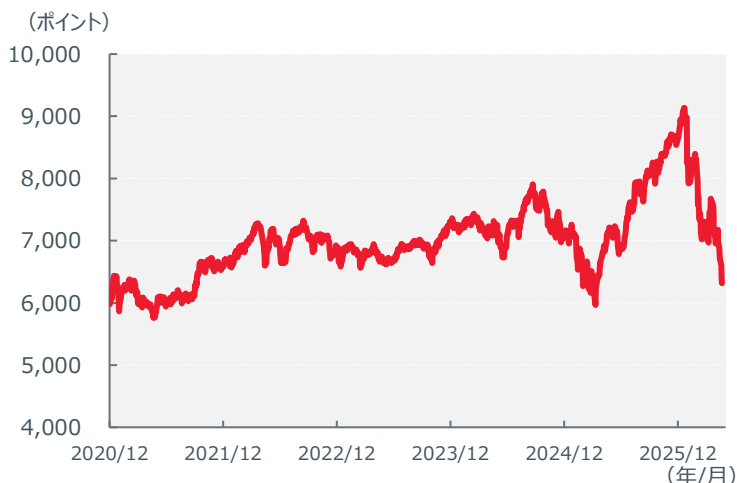
- 市場の事前予想を上回る利上げが実施され、発表当日の20日、ルピアは対米ドルで前日比0.30%上昇、対円では0.22%上昇しました。インドネシア株式市場（ジャカルタ総合指数）は前日比0.82%下落となり、債券市場では10年国債利回りが前日比+4.3bps（+0.043%）となりました。
- 世界の金融市場では、国際情勢の悪化などを背景に新興国を含む幅広い市場から資本流出が続いており、高利回りかつ安全資産とみなされる米国債への資本シフトが進み、米ドルが上昇、新興国通貨への下落圧力も強まっています。ルピアにも引き続き下落圧力がかかっていますが、BIは、NDF（ノンデリバブル・フォワード）、DNDF（国内NDF）、スポット市場での三層的な介入を強化し、為替の安定を図っています。また、信用拡大と流動性管理の強化を目的にマクロプルーデンス政策***の最適化を進めています。さらに、デジタル決済インフラの整備や決済システムの統合を通じて、金融包摂と経済のデジタル化を支援する取り組みも継続しています。加えて、2026年6月より、実需を伴わないルピア建て外貨現金購入の上限を1人あたり月額25,000米ドルに引き下げるなど為替市場取引に関する政策を強化します。
- BIは、BIの確固たるコミットメント、魅力的な利回り、インドネシアの有望な経済見通しに支えられ、ルピアは安定し、上昇方向に向かうとの認識を示しています。また、ルピアの安定維持、目標範囲内でのインフレ管理、国際収支の改善、経済安定の強化のためには政府とBIの更なる連携が必要と述べています。
- 当社は、今回の市場予想を上回る0.5%の利上げは、従来の「様子見」スタンスからの明確な転換を示すものとみています。ただし、成長を後押しするための流動性は引き続き潤沢に維持する方針を示唆しており、追加利上げのハードルは相応に高いと考えられます。市場への影響としては、今回の利上げは通貨ルピアに対してはポジティブである一方、短期的には債券市場にとってややネガティブと見ています。もっとも、通貨の安定はインドネシア債券市場の信頼感向上と安定化につながる可能性があります。BIは当面、為替安定を重視しつつも、金融政策スタンスは比較的緩和的に維持される見込みであり、今後の成長は財政政策および信用供給の進展に左右されると考えられます。今回の前倒し的な利上げと、今後数ヵ月におけるルピアの季節的な押し上げ要因などにより、短期的には追加利上げの必要性は低下していますが、中東情勢の長期化などを引き続き注視しつつ、必要に応じて追加利上げの可能性もあるとみています。

***金融システム全体のリスクの状況を分析・評価し、それに基づき制度設計、政策対応を図ることを通じて、金融システム全体の安定を確保する政策

株式

ジャカルタ総合指数の推移

（2020年12月30日～2026年5月20日、日次）

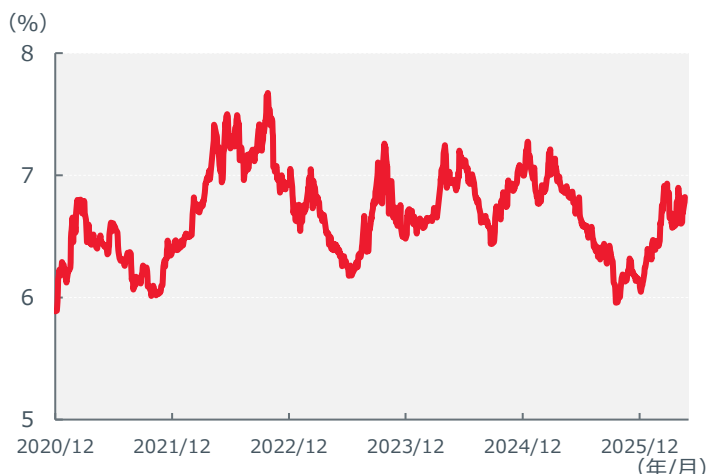


出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

債券

インドネシア10年国債利回りの推移

（2020年12月30日～2026年5月20日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することをご遠慮ください。